委員長からのメールです

モノじゃない その人そのもの

心に残る「義肢作り」と「帝国ホテル」

人材育成委員会委員長 松﨑史成

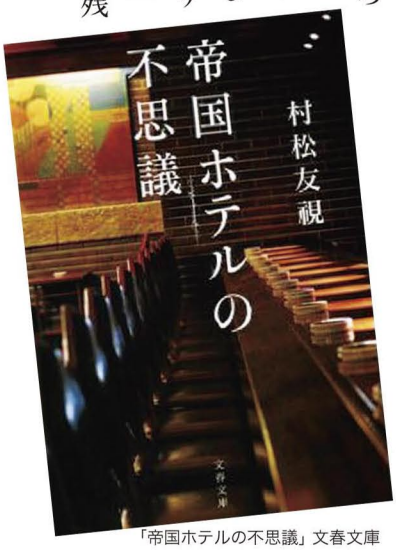
こんにちは、人材育成委員会の松﨑でございます。皆様にはいつも委員会活動にご協力頂き感謝申し上げます。今回は、最近私の心に残った番組と本をご紹介致します。まずはNHK「プロフェッショナル仕事の流儀」で取り上げられた「義肢装具士　林伸太郎」さんの話です。

心に残った一言「モノじゃないその人そのもの」。

共感したのは、林さんのモノづくりの姿勢です。単に失われた肉体の一部を代替する〝モノ〟をつくるというだけでなく、依頼者の失われた〝生きがい〟やこれからの〝人生〟にも目を向けて、それを依頼者とともに取り戻そうとする姿勢に感動しました。

私どものホールにも日々いろいろ事情や思いを抱えてお客様が来店されています。ひとくくりにお客様ととらえるのではなく「あなたはお客様一人ひとりに真剣に向き合っていますか?」と問いかけられたようで、心に残る番組でした。

人材育成委員会で会議を進める松﨑委員長（中央奥）



「帝国ホテルの不思議」文春文庫

もう一つは「帝国ホテルの不思議」村松友視著（文春文庫）です。この本は村松氏が帝国ホテルの方々にインタビュー形式で話を伺った内容を本にしてありますので、とても読みやすい内容になっています。登場する各担当の方々が自然体で話をされていて、みなさんその道の一流の方々なのですが、決して上から目線ではなく、親しみが感じられ、まるで自分が話を聞いているようにその内容に引き込まれてあっという間に読破しました。

歴史あるホテルですが、近年世界中の名だたるホテルが東京へ進出し競争は激しくなっています。しかし、東京が街としてニューヨークやパリ、ロンドンと同じように評価されていると前向きに価値づけ、海外のホテルチェーンとは違った〝帝国ホテルらしさ〟を感じて頂けるチャンスだと捉えています。そして120周年を迎える帝国ホテルの原点に立ち戻って、その歴史と伝統を生かして存在価値を高めようとされていることがよくわかりました。

我々の業界も、娯楽という観点では同業以外を含め生存競争が激しくなっているなかで独自の価値を創造していかなければならない状況が重なってみえ、帝国ホテルの考え、そこで働く方々の仕事に対する姿勢や取組みがとても参考になる一冊でした。